

魅力発信！えひめ農業

令和6年8月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興

※2 この動向は、8月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

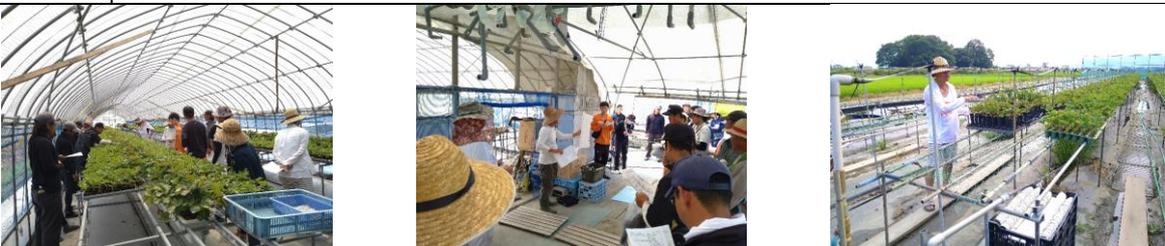
<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

目次

目次	1
8月のトピックス5選	3
JAの垣根を超えた若手いちご生産者育苗現地研修会を実施	3
第9回上浦地区早期復興ワーキングチーム会議を開催	3
久万高原トマト部会がエコファーマー団体認定取得	4
河内晩柑におけるドローン防除実証を開始	4
奥伊予特選栗の審査会実施により高品質生産を推進	5
えひめ農業	6
■東予地方局地域農業育成室	6
市民向け野菜栽培講習会を開催	6
きめ細やかな相談対応で新規就農者のレベルアップを支援	6
■東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班	7
青年農業者がさといも湛水栽培技術を視察	7
若手女性農業者が南予の一次産業女子と交流	7
食育講座で農業や地域食材への理解と関心を促す	8
■今治支局地域農業育成室	8
さといも種芋の新增殖技術実証ほの収量調査を開始	8
かんきつ県オリジナル品種の現地講習会を開催	9
集落ぐるみでニホンザルの被害防止対策を推進	9
新規就農者に対し高温対策を個別指導	10
■今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	10
スリランカ技能実習生の受け入れ決定	10
特産かんきつ「瀬戸の晴れ姫」の適切な着果管理を実証中	11
夏採りレモンがテレビで取り上げられる	11
かんきつ類果実の日焼け対策実証	12
■今治支局産地戦略推進室	12
管内の廃ハウス情報をリストアップ	12
今治産イタリア野菜のPRと販路拡大に向けて	13
■中予地方局地域農業育成室	13
若手施設野菜農家が環境モニタリング技術を学ぶ	13
青年農業者の経営管理能力をスキルアップ	14
「愛媛お手伝いプロジェクト」を農家へ説明	14
■中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班	15
新規就農者確保に向け勉強会を開催	15
グローバルGAP内部審査を実施	15
■中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班	16
若手トマト農家の栽培技術力向上	16

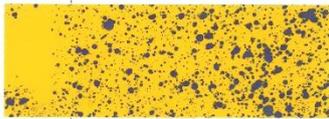
■中予地方局産地戦略推進室	16
需要期出荷を目的とした「さくらひめ」夏季自家育苗の取組み	16
パクチー夏播き栽培の出荷最盛期	17
■南予地方局地域農業育成室	17
ドローンを活用した機動的な水稻防除の実証	17
儲かる農業宇和島地区交流セミナー（新規就農者講座）を開催	18
種用さといも生育順調	18
■南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班	19
早場米地帯のイネカメムシ被害の軽減	19
「紅まどんな」の肥大良好！	19
■南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班	20
松山在住の児童に「愛南ゴールド」を利用したジュース作り体験教室を開催	20
若手農業者に対し儲かる農業愛南地区交流セミナーを開催	20
■八幡浜支局地域農業育成室	21
アザミウマ類の発生調査による効果的な防除を指導	21
ジビエを見据えた地域ぐるみのイノシシ対策を関係機関で協議	21
■八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	22
黒系ぶどうにおける着色促進剤の効果を検証	22
ラディッキオの産地化に向けた検討会を実施	22
■八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	23
マイネットと若手女性農業者が交流会を開催	23
■八幡浜支局産地戦略推進室	23
さといもの省力的な防除技術を実演！	23
■農産園芸課 高度普及推進グループ	24
低コスト環境計測機器の製作講習会を開催	24
水稻の採種ほ審査等の実施	24
優良事例から6次産業化について学ぶ	25

8月のトピックス5選

標 題	JAの垣根を超えた若手いちご生産者育苗現地研修会を実施		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年8月6日		場所	西条市明理川、願連寺
指導対象	東予東部若手いちご生産者等20人（JA周桑5人、JAえひめ未来7人、無所属8人）		連携機関	JA（周桑、えひめ未来）、原田農園、ひのいちご園
普及指導内容	<p>○栽培環境データを活用した環境制御技術に関心の高い若手生産者を対象に、学びあう仲間づくりや栽培環境データ共有の促進を図るため、JAの垣根を超えた相互交流現地研修会を当室主体で開催した。</p> <p>○環境制御技術により単収向上を図るには、優良苗の生産が重要であることから、当室から育苗技術の講習を行うとともに、現地視察では優良苗の生産者から具体的な育苗方法や留意点などを学んだ。</p>			
結果と今後	<p>○現地視察では、底面給水育苗において灌水ムラを少なくするため、防根シートの下に安価な市販キッチンペーパーを敷く方法が紹介され、参加した3人以上の若手生産者が自身のほ場でも実践することとなった。</p> <p>○JAの垣根を超えた研修会の取組は今年で2年目となり、情報交換が活発に行われるようになった。</p>			
				
底面給水法の優良ほ場を視察 キッチンペーパーの用途を説明 露地育苗法を説明する生産者				

標 題	第9回上浦地区早期復興ワーキングチーム会議を開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和6年8月8日		場所	JAおちいまばり営農経済事業部
指導対象	上浦地区再編復旧関係機関（24人）		連携機関	JAおちいまばり、今治市、農業振興課、農村整備課
普及指導内容	<p>○西日本豪雨被災後の再編復旧工事や営農計画の進捗状況を報告するとともに、早期営農再開に向けた取組み、未来型果樹農業の実現に向けた事業計画等を協議した。</p> <p>○当室からは、今年3月に「レモン」「紅まどんな」等を植え付けた園地（2.3ha）の生育状況や、緑肥作物の栽培による土づくり等について報告した。</p> <p>○JAからは、昨年度に導入した防除用ドローンの活用、気象観測装置と遠隔自動かん水装置の順調な稼働が報告され、今後の苗木植え付け等の事業計画について検討した。</p>			
結果と今後	<p>○復旧工事の進捗に合わせて営農計画を協議した結果、新たな整備園の土づくりと効果的な土壌流亡対策の取組み、苗木の植え付け等の各種事業の効果的な実施に向けた計画を共有し、意識統一を図った。</p>			
				
生育状況等を報告 ソルゴーとレモン苗 盛工区の現状				

標 題	久万高原トマト部会がエコファーマー団体認定取得		機関名	中予局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和6年8月28日	場所	久万高原町内	
指導対象	久万高原トマト部会（76人）	連携機関	JA松山市	
普及指導内容	<p>○同部会における環境にやさしいトマトの生産活動を支援した結果、今年度、環境負荷低減事業活動実施計画に基づくエコファーマーの団体認定を受けた。</p> <p>○同部会では、牛糞堆肥など有機物の投入による地力の向上や養液土耕方式による化学肥料の削減のほか、抵抗性品種・木目利用やマルチ栽培等による化学農薬の削減に取り組み、環境にやさしいトマト栽培を実施している。</p>			
結果と今後	<p>○エコファーマーに認定されたことで、安全安心なトマトを市場や消費者にアピールすることができ、販路の拡大や単価の向上が期待される。</p> <p>○当指導班では、今後も環境にやさしい生産技術の導入・普及とともに、トマト生産の拡大や新規生産者の確保に取り組み、産地の活性化を目指す。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="text-align: center;">【エコファーマー】</p> <p>みどりの食料システム法に基づき、土づくり、化学肥料・化学農薬の削減に取り組む農業者をエコファーマーとして県が認定</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>養液土耕栽培による化学肥料削減</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>葉かび病抵抗性品種の導入</p> </div> </div>				

標 題	河内晩柑におけるドローン防除実証を開始		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和6年8月1日、22日	場所	愛南町緑	
指導対象	河内晩柑生産者	連携機関	JAえひめ南	
普及指導内容	<p>○愛南町では果樹農家の高齢化により農薬散布の省力化が求められている一方で、基幹品目である河内晩柑のドローン防除については、十分に効果検討されていないため、実用化に向け、傾斜園地（40a）で黒点病に対する防除実証を開始した。</p> <p>○園地内の計6樹（1日は2樹、22日は4樹）に感水紙を設置し、散布後の付着状況及び散布時間を調査した。</p>			
結果と今後	<p>○散布時間はドローン散布により大幅に短縮することができたが、樹の大きさや樹形、樹間距離、感水紙の設置箇所の違いによって付着面積率が大きく異なり、散布ムラが大きいという課題が残った。</p> <p>○今後は、収穫時に黒点病の防除効果や付着面積率との関連などを調査し、黒点病に対するドローン防除について検討していく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p>【感水紙】 水が付着すると色が変わり、乾くと紙に色が定着する。</p> <p>【付着面積率】 感水紙面積あたりの薬剤がかかった面積を百分率で算出。値が高いほど薬剤が付着している。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>左：ドローン散布</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>上：回収した感水紙</p> </div> </div>				

標 題	奥伊予特選栗の審査会実施により高品質生産を推進		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和6年8月1日～2日	場所	西予市内各地くり園地	
指導対象	くり生産者（6人）	連携機関	JAひがしうわ	
普及指導内容	○JAひがしうわと連携し、「奥伊予特選栗」に申請があった34園地を巡回し、審査基準に沿い、生育や着穂状況、除草やせん定等の栽培管理状況を評価した。 ○審査基準を満たしつつも、一部にせん定不足や生育不良のみられた園地については、樹高の切り下げや施肥等の改善など、高品質生産に向け指導した。			
結果と今後	○申請者全員が特選栗の出荷資格を得たが、引き続き、巡回や講習会を通じて、適切な肥培管理や防除等を指導し、高品質安定生産を図っていく。			

【奥伊予特選栗】

防除、せん定、土壌管理等の厳しい園地審査をクリアするとともに、庭先選別、選果を徹底して出荷する特選栗である。「愛」あるブランド産品に認定されている。



園地管理状況の審査



くりの着穂状況等の確認

えひめ農業

標 題	市民向け野菜栽培講習会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年8月7日	場所	JA えひめ未来 新居浜経済センター	
指導対象	産直市出荷者、野菜栽培に興味がある市内在住者（32人）	連携機関	JA えひめ未来、新居浜市	
普及指導内容	<p>○新居浜市では、地域農業の核となる産直市「四季菜広場」のリニューアルを次年度に控え、販売品目のバリエーションと出荷量の増加が必要なことから、当室が主体となり、新規出荷者獲得と増収技術の習得を目的とした栽培講習会を開催した。</p> <p>○当室から、秋冬野菜の植え付け、栽培管理・病害虫対策のポイントについて説明し、JAからは産直市への出荷方法、市からは就農関係制度などを説明した。</p>			
結果と今後	<p>○産直市出荷者の栽培技術向上と、出荷希望のある参加者の意欲向上が図られた。</p> <p>○講習会後のアンケートでは、全員から「次回も参加したい」との回答があったため、出荷意欲のさらなる向上に向け、収益の試算や売れる包装・陳列のポイントなど、より具体的な内容の講習会を開催し、新規出荷者の確実な獲得を目指す。</p>			
				<p>左：野菜の栽培方法を学ぶ参加者</p> <p>右：出荷方法の説明を受ける参加者</p>

標 題	きめ細やかな相談対応で新規就農者のレベルアップを支援		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年8月20日	場所	JA えひめ未来 あぐりセンター	
指導対象	就農5年以下の新規就農者（7人）、新規就農希望者	連携機関	JA えひめ未来、西条市、農業委員会、日本政策金融公庫、県農業共済組合、愛媛県信連 ほか	
普及指導内容	<p>○当室では、関係機関と連携し、地域の担い手の早期自立と経営基盤強化のため、関係機関が一堂に会する「西条営農推進連絡会議」を毎月開催し、主に就農5年以下の新規就農者の生産現場や経営の状態について情報を共有し、支援内容を検討している。</p> <p>○本会議に併せて、個別相談も予約制で実施しており、8月は就農相談1件、資金相談1件、認定手続き関係1件を対応した。</p>			
結果と今後	<p>○資金関係や収入保険制度などの詳細についてもきめ細かく対応できるよう、当室の呼びかけにより新たな関係機関を加えることで、相談者への対応が充実している。</p> <p>○個別相談は、月平均で7件、多い月には10件以上対応している。</p> <p>○当室では、関係機関の役割を明確にし、引き続き一体となって担い手の支援を充実させていく。</p>			
				<p>左：個別相談の様子</p> <p>右：就農5年以下の新規就農者の生産現場</p>

標 題	青年農業者がさといも湛水栽培技術を視察		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和6年8月1日	場所	鹿児島県薩摩郡さつま町	
指導対象	四国中央青年農業者連絡協議会 野菜部会会員（6人）	連携 機関	鹿児島県北薩地域振興局農政普及課 さつま町駐在 普及グループ	
普及指導 内容	○同会員の多くがさといもを栽培しており、湛水栽培技術を確認したいという意見があったことから、当班が主体となって、同技術に取り組む先進地の視察研修を実施した。 ○会員は、視察先の担当普及指導員から湛水栽培技術の説明を受けた後、実際に湛水栽培を行っている農家のほ場を視察し、意見交換を行った。			
結果と今後	○さといもの湛水栽培は豊富な水資源が必要だが、慣行栽培に比べ約2割増収するとともに、乾腐病菌の増殖や裂開症等を抑制することを学び、会員からは、「湛水栽培に適したほ場や水資源が確保できれば、すぐにでも実践したい」という声が聞かれた。 ○なお、同町のさといも農家及び普及グループは、6年前に視察研修で四国中央市を訪れており、以前から交流があったことから、互いの栽培方法や技術の特色等に係る活発な意見交換につながった。			
				<p>左：湛水栽培技術の説明を受ける会員</p> <p>右：湛水栽培に取り組むほ場を視察</p>

標 題	若手女性農業者が南予の一次産業女子と交流		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和6年8月6～7日	場所	西予市明浜町、宇和島市津島町	
指導対象	さくらひめ四国中央会員（4人）	連携 機関		
普及指導 内容	○同会員から、自らの経営に加え地域活動をしている一次産業女子の事例を収集し、今後の農業経営や組織活動の方向性を検討したいという意見を受け、当班が主体となり、先進事例の視察研修を実施した。 ○視察研修は、米麴の活用や発酵を指導する大谷りえ氏、農家民宿を営む山下由美氏、真珠アクセサリ製作体験等に取り組む株式会社あこやひめで実施した。 ○それぞれの生産者から、取組経緯や活動内容、経営状況等について講義や実習により技術習得するとともに、意見交換を行った。			
結果と今後	○会員からは、「早速米麴を作って、可能なら販売したい」「自らの経営と地域に目を向けた活動がしたい」「数字を見た経営をしなくては」と前向きな意見が聞かれた。 ○会員は、今後、地元中学校での出前授業を計画しており、今回の実習により習得した生徒の興味を引く上手な指導方法が授業に活かされる見込み。			
				<p>左：「米麴の活用」について実習する会員</p> <p>右：株式会社あこやひめの経営改善について研修</p>

標 題	食育講座で農業や地域食材への理解と関心を促す		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和6年8月24日	場所	四国中央市土居町蕪崎	
指導対象	市内小学校児童及び保護者 (186人)	連携機関	四国中央市、JA うま、NOSAI えひめ	
普及指導内容	<p>○当班では、関係機関と連携し、地産地消を推進するため、市内小学校児童と保護者らを対象とした「学校給食米収穫祭」を毎年実施している。</p> <p>○今年度は、稲の収穫作業、食育講座、おにぎりづくりを行っており、当班は「食育講座」を担当し、田んぼの多面的機能や自然環境に優しい米づくりの工夫、農作業の機械化について、紹介や説明をして参加者の農業や地域食材への理解と関心を促した。</p>			
結果と今後	<p>○児童からは「鎌で刈る作業がおもしろかった」「おにぎりがおいしい」などの声が聞かれ、地域農業への関心の高まりが感じられた。</p> <p>○今年度に、市内52戸の農家が生産するコシヒカリやにこまるは、学校給食米「うまそだち」として年間約100t供給される見込み。</p> <p>○当班は、今後も、学校給食交流会等を通して、児童の食農教育や地産地消の取組みを支援する。</p>			
				<p>左：学校給食米から地域農業を考える学習支援</p> <p>右：鎌を使って稲刈り作業を体験</p>

標 題	さといも種芋の新增殖技術実証ほの収量調査を開始		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年8月26日	場所	さといも実証ほ場（5か所）	
指導対象	さといも生産農家（5人）	連携機関	JA おちいまばり、岩谷産業（株）、伊予農産（株）	
普及指導内容	<p>○当室が考案したさといも優良種苗の新しい増殖技術の確立に向け、設置している実証ほ場で収穫調査等を実施している。</p> <p>○新增殖技術は、親芋から直接苗を採取することにより、短期間かつ低コストで種芋を生産するもので、市内5か所に実証ほを設置しながら確立を進めている。</p>			
結果と今後	<p>○新增殖技術は、従来の種芋やセル苗を定植した栽培方法に比べ子芋の肥大が早く、収穫初期にもかかわらず1株で2.5kg以上の子・孫芋が着生する株もあった。</p> <p>○10月からは、県外の大手ガスメーカー及び県内種苗会社と協働で、次年度の苗生産に向け、収穫済の親株を利用した増殖実証を始める予定。</p> <p>○当室は、優良種苗生産の新技术確立に向け、関係機関やメーカー等と連携した活動を精力的に進めていく。</p>			
				
<p>新增殖法の実証区の調査</p>		<p>収穫した芋の調査</p>		<p>左から慣行、新增殖法、セル苗区</p>

標 題	かんきつ県オリジナル品種の現地講習会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年8月14～29日	場所	今治市大西地区	
指導対象	かんきつ生産者（81人）	連携機関	JAおちいまばり	
普及指導内容	<p>○県オリジナル品種の高品質果実の安定生産を目指して仕上げ摘果講習会を地区別に開催した。</p> <p>○会では、品種特性や生育状況にあわせた摘果の方法のほか、病害虫防除等を指導した。</p> <p>○特に、ハウス栽培（「紅まどんな」等）については、地区別に全員で各生産者の園地を巡回し、摘果、夏梢管理、枝吊りなど、生育ステージごとに大玉果実を生産するためのポイントを指導した。</p>			
結果と今後	<p>○昨年は、夏季の高温乾燥により、特に「紅まどんな」の2L以上が50%未満と小玉であったが、今年はこれまでの夏季管理の徹底から、ここまでの生育は良好である。</p> <p>○「甘平」では、8月下旬の降雨で「縦割れ」が始まっているものの、かん水を励行し荒摘果を徹底して行った園では小発生で推移しており、今後とも関係機関と連携して、県オリジナル品種の安定生産を図っていく。</p>			
				
ハウス栽培園地を巡回		夏季管理を指導		かん水と摘果で裂果の少ない甘平

標 題	集落ぐるみでニホンザルの被害防止対策を推進		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年8月14日	場所	今治市古谷	
指導対象	なし農家（3人）	連携機関	岡山理科大学、農産園芸課、農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○ニホンザルによる被害が拡大している古谷地区において、本年度新たに被害を受けた生産者に対し、防風ネットを利用した電気柵の設置を指導するとともに、センサーカメラを設置して、園地への侵入経路を明らかにした。</p>			
結果と今後	<p>○同地区は、当室の指導を受け被害対策に取り組んだなし園では被害が減少した一方で、山際だけでなく徐々に平野部の園地までサル被害が拡大している。</p> <p>○当室では、引き続きこれまで対策を実施していない生産者に対し、防護ネットや電柵の設置等を指導するとともに、集落ぐるみで被害防止対策に取り組む。</p>			
				
生産者と侵入経路を確認		電気柵のためポール設置		電気柵の設置

標 題	新規就農者に対し高温対策を個別指導		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和6年8月22～23日	場所	今治市内各地	
指導対象	新規就農者（12人） （新規参入者7人、Uターン5人）	連携機関	今治市、JA（おちいまばり、今治立花）	
普及指導内容	<p>○当室と関係機関からなる就農サポート支援チームは、新規就農者を対象に経営上の問題を聞き取る個別面談を実施している。</p> <p>○当室は、面談の内容に応じて経営改善に向けた個別指導を行った。</p>			
結果と今後	<p>○個別指導では、高温、少雨に伴う障害果の発生や病害虫対策等を指導するとともに、早期の経営確立・安定化に向けた補助事業や制度資金の活用等を指導した。</p> <p>○当室は、引き続き定期的に新規就農者を巡回するとともに、9月に就農者向けの補助事業や関連制度等を学ぶ研修会を開催し、経営の早期確立を支援する。</p>			



サポートチームによる聞き取り



なす栽培者への高温対策指導



甘平栽培者へのかん水指導

標 題	スリランカ技能実習生の受け入れ決定		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和6年8月25日	場所	上島町岩城	
指導対象	(株) ブルーレモンファーム	連携機関	国際人材育成機構（アイムジャパン） 農地・担い手対策室、上島町	
普及指導内容	<p>○上島町の農業法人代表の古川泰弘氏は、現地との調整のためスリランカへ渡航し、技能実習生の男性1名と面談の上、受入れを正式に決めた。</p> <p>○当班では、同法人を重点指導対象として技術指導及び経営相談等を実施しており、技能実習生の受け入れについては令和5年11月から監理団体と協議してきた。</p>			
結果と今後	<p>○スリランカ人材は、法人の農産加工等の業務拡張に伴う労力補完としての活躍に期待されており、現在、同社では、令和7年1月の来日に向け調整している。</p> <p>○当班では、来日までの受け入れ態勢の整備及び来日後の技能実習生への技術指導等の支援を行っていく予定。</p>			



来日する技能実習生と家族



スリランカの訓練校で交流



経営の中心レモンハウス

標 題	特産かんきつ「瀬戸の晴れ姫」の適切な着果管理を実証中		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和6年8月上中旬	場所	今治市上浦町盛	
指導対象	はれひめ栽培農家	連携機関		
普及指導内容	<p>○当班では、しまなみ地域特産の「はれひめ（ブランド名：瀬戸の晴れ姫）」の安定生産を目指して、6月から、樹勢維持や果実の生育促進につながる着果管理技術を検討するために実証試験を行っている。</p> <p>○これまでの調査結果から、着花（果）過多の樹には、早期に樹冠上部摘果を行い、新梢の発生を促して、夏季の高温乾燥時にも樹勢を維持することが有効と分かった。</p> <p>○実証農家とも情報共有し、梅雨明け後の高温と土壤乾燥が急激に進む中でも、適切に摘果やかん水を行うことで果実の生育を促し、安定生産に向けた栽培を継続している。</p>			
結果と今後	<p>○樹勢の衰弱が著しく、従来の摘果方法では安定生産に苦慮していた実証農家も、これまでの実証経過に手応えを感じており、今後、摘果方法の改善や着果管理の見直しによる安定生産が期待される。</p> <p>○今後も引き続き、実証農家と協力しながら栽培実証を継続し、実証結果は産地全体で共有して「はれひめ」の高品質果実、安定生産につなげる。</p>			
				<p>左：着果管理の様子 右：高温乾燥により樹勢が低下した「はれひめ」</p>

標 題	夏採りレモンがテレビで取り上げられる		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和6年8月28日	場所	上島町岩城	
指導対象	上島町レモン生産農家	連携機関	岩城物産センター、上島町農林水産課	
普及指導内容	<p>○令和2～3年度にかけて局予算を活用して振興してきた、夏季の収益確保を期待できる夏採りレモンが、NHK「ひめポン」で取り上げられた。</p> <p>○番組では、岩城のレモンハウスをアナウンサーが訪れ、夏採りレモンの魅力、特徴、加工品が紹介された。</p>			
結果と今後	<p>○当番組により、「皮は緑でも熟している」「皮が薄く、丸ごと食べられる」「種が少ない」などの夏採りレモンの特徴や、「青いレモンの島 岩城」を視聴者にアピールすることができた。</p> <p>○夏採りレモンは需要に供給が追いついていない状況であり、当班では引き続き、増産、安定生産に向けた栽培指導を行っていく。</p>			
		取材の様子		

標 題	かんきつ類果実の日焼け対策実証		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和6年8月16日	場所	しまなみ農業指導班岩城駐在	
指導対象	上島町かんきつ生産者	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○かんきつ類果実の「日焼け」は、主に、日射量が高まり果実表面が高温となる夏季に発生し、す上がりや炭疽病を引き起こす等、収量や品質低下の大きな要因となる。</p> <p>○近年、初夏～秋にかけて高温や乾燥に見舞われるなど、日焼けを助長する環境条件が整いやすいことに加え、日焼け軽減を目的としたこまめなかん水が高齢化により困難である場合も多く、被害が増加傾向にある。</p> <p>○そこで、かんきつ類の中でも、日焼けの発生が特に著しい「せとか」を用いて、各種被覆資材等の施用による被害軽減効果等を実証することとした。</p>			
結果と今後	<p>○岩城実証圃内の露地せとか園地を、ホワイトコート・クレフノン・寒冷紗等の5区に分け、日焼けの発生要因となる気温や照度等の経時データを収集する。</p> <p>○収穫果実の品質調査により効果を検証するとともに、労働負荷や採算性等を踏まえ、効果が認められる実証結果については、講習会等を通じて生産者への普及を図る。</p>			
  			<p>左：実証圃の様子 中：果実のす上がり 右：せとかの日焼け</p>	

標 題	管内の廃ハウス情報をリストアップ		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和6年8月20日	場所	今治市富田地区	
指導対象	-	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○当室ではアップサイクルに着目した農業生産システムに取り組んでおり、廃ハウスを解体して得られた資材の活用と、自主施工による低コストなハウス建設に取り組んできた。</p> <p>○今後、廃ハウスの活用を促進するためには、まずは、管内に点在する廃ハウスの場所、数、状態などの情報を顕在化することが必要であることから、その手法や体制についてJA おちいまばりと協議した。</p>			
結果と今後	<p>○協議の結果、JA からも「廃ハウスは解体作業が重労働。資材が必要な生産者が代わりに解体してくれるなら助かる人は多い」と廃ハウス活用に好意的な意見が得られた。</p> <p>○手法としては、廃ハウス情報を Google マイマップの地図上でリストアップすることとし、当室とJA が共同で取り組む。</p> <p>○今後は、課題を抽出・改善しながら、9月末を目処にマップの試作を進めるとともに、作成したマップの活用方法や、廃ハウス所有者と需要者とのマッチングシステムについても検討する。</p>			
				
未利用のハウスが管内に点在			解体し資材として活用	
				
Google マイマップのイメージ				

標 題	今治産イタリア野菜の PR と販路拡大に向けて		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和6年8月8日	場所	イタリア料理店（東温市牛湊）	
指導対象	イタリア野菜生産者	連携機関	ロカンダ デル クオーレ	
普及指導内容	<p>○「しまなみみんなのディッシュ」アドバイザーの青江氏がオーナーシェフであるイタリア料理店「ロカンダ デル クオーレ（東温市牛湊）」に、今治産イタリア野菜を持ち込み、イタリア料理に使用する上での助言を求めるとともに営業活動を行った。</p> <p>○あわせて、持ち込んだ「イタリアントマト」、「バターナッツ」、「ビーツ」を使って試作し、同店でのメニュー化の可否と今後の出荷品目・時期・規格を協議した。</p>			
結果と今後	<p>○8/16～9/6の期間限定出張店舗「山のレストラン PRANZO（今治市玉川町）」で「イタリアントマト」を使用したパスタの提供を決定した。</p> <p>○通常店舗では、「バターナッツ」、「ビーツ」に加えて、「カーボロネロ」を使用したメニューを開発し、9月下旬頃から提供を開始することとした。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>営業活動の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>持ち込んだイタリア野菜の確認</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>試作したパスタ料理</p> </div> </div>				

標 題	若手施設野菜農家が環境モニタリング技術を学ぶ		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年8月8日	場所	東温市田窪	
指導対象	若手施設野菜生産者（8人）	連携機関	JA（松山市、えひめ中央）、（株）誠和、農産園芸課	
普及指導内容	<p>○当室では、これまで若手いちご生産者を対象に開催してきた、環境モニタリングの研修会を、本年度からトマト、なすの若手生産者にも対象を広げて実施した。</p> <p>○令和5年産のいちご生産者（5人）の環境データを共有し、データの蓄積と情報共有の必要性を指導するとともに、低コスト環境モニタリング機器（1機5万円程度）の製作実演を行った。</p> <p>○また、環境モニタリング装置の操作方法やデータ管理等についてデモンストレーションを実施した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「環境データの必要性や環境装置の製作方法を研修で学ぶことができ良かった」と環境モニタリングシステムに関心を寄せていた。</p> <p>○今年度、環境モニタリング装置（低コスト機器含む）を施設トマト農家（1戸）及びいちご農家（1戸）が導入予定で、管内の導入農家は4戸となる。</p> <p>○今後は、農家自らが、データを蓄積、分析して栽培に活かせるよう指導するとともに、低コスト機器の実用性等について検証する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>左：若手施設野菜農家を対象とした勉強会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>右：低コスト環境モニタリング機器</p> </div> </div>				

標 題	青年農業者の経営管理能力をスキルアップ		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年8月21日	場所	松山市役所中島支所	
指導対象	中島青年農業者協議会員（9人）	連携機関	えひめ農業経営サポートセンター	
普及指導内容	<p>○青年農業者の経営管理能力向上のため、えひめ農業経営サポートセンターのコンサルタントを講師に招き、農業簿記記帳の必要性や経営管理等について勉強会を開催。</p> <p>○講師からは、家事仕向け経費の按分や各種経費の根拠資料を整理するなどの注意点について説明があり、参加者からの多くの質問に丁寧に回答した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「記帳するに当たって、必要書類の整理が必要であることがわかった」「個人販売での販売・管理費について疑問が解消された」等の声があり、適正な簿記記帳に関するスキルを身に付けた。</p> <p>○今後も組織活動支援等を通じて、青年農業者の資質向上を図ることとしており、9月には宇和島市吉田町の西日本豪雨災害復興状況やかんきつ園の基盤整備先進地事例を視察する予定。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="margin-left: 20px;"> <p>左：講師による記帳の講義</p> <p>右：研修会でスキルアップを図る会員</p> </div> </div>				

標 題	「愛媛お手伝いプロジェクト」を農家へ説明		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年8月29日	場所	松山市由良、潮見地区	
指導対象	かんきつ生産者（6人）	連携機関	JA（えひめ中央、全農えひめ）、(株)VOCE	
普及指導内容	<p>○中予地域のかんきつ栽培の労働力確保のため、有償ボランティア「愛媛お手伝いプロジェクト」の導入について生産者への説明会を開催した。</p> <p>○今年度は、かんきつ栽培が盛んな松山市の島しょ部や北部地域をモデルとして実施することとしており、事業の仕組みやマッチングアプリの活用について説明し、生産者への理解と利用を促した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「袋かけや収穫の作業を依頼したい」などの声があり、10月からのボランティア受入れに向け求人を募集することとなった。</p> <p>○当室では、同プロジェクトの円滑な実施のため、企業や大学、県職員等へボランティアへの参加を働きかけ、かんきつ産地の労働力確保を支援する。</p>			
<div style="text-align: center;">  <p>プロジェクトによる求人方法を生産者へ説明</p> </div>				

標 題	新規就農者確保に向け勉強会を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和6年8月25日	場所	伊予市農業振興センター、JA えひめ中央新規就農研修センター	
指導対象	野菜栽培希望者（4人）	連携機関	伊予市、JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○伊予市農業振興センター新規就農担当者会（事務局：伊予農業指導班）は、管内で野菜栽培での就農希望者への勉強会を開催した。</p> <p>○室内では、土づくりや農薬の基礎知識、果菜類の栽培管理の基本、就農支援について座学を行った。</p> <p>○また、JA えひめ中央の野菜研修ほ場で研修制度の概要を説明し、なすの収穫作業等の実習を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「技術を習得することで、効率良く栽培できると感じた」などの声があり、就農に向けて農地の確保や支援制度の相談を希望する者もいた。</p> <p>○今後も、サラリーマン等が参加しやすい休日での勉強会や、就農相談会を開催し、就農候補者を掘り起こす。</p>			
				<p>左：栽培の基礎知識を学ぶ 右：研修ほ場でなす栽培を実習</p>

標 題	グローバル GAP 内部審査を実施		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和6年8月26日	場所	県立伊予農業高校	
指導対象	伊予農業高校生（5人）	連携機関	県農産園芸課	
普及指導内容	<p>○伊予農業高校が、平成30年10月22日から取り組んでいるグローバル GAP（水稲）についての内部審査を実施した。</p> <p>○審査では、200以上の審査項目について書類と現地確認を行い、リスク評価表の文言の修正など3項目について改善するよう指導した。</p>			
結果と今後	<p>○生徒からは、「本審査に向けて改善すべきことが把握できた」「グローバル GAP に取り組む有効性を改めて確認できた」等の声があった。</p> <p>○今後、9月下旬の本審査に備えるとともに、グローバル GAP の考え方を徹底し、持続的な農業の実現を目指す。</p>			
<p>【グローバル GAP】 食品安全・環境保全・労働安全・人権保護・農場経営管理の5項目に配慮した「持続的な生産活動」を実施する農業者に与えられる世界共通の認証制度</p>				
		リスク評価表等の書類をチェック		倉庫の整理・整頓状況を確認

標 題	若手トマト農家の栽培技術力向上		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和6年8月6日	場所	久万高原町内	
指導対象	トマト新規就農者、研修生（11人）	連携機関	久万高原町営農支援センター	
普及指導内容	<p>○若手トマト農家の技術力強化を図るため、新規就農者（就農1～2年目）や久万農業公園研修生を対象に、定期的にトマトの生育調査に基づく栽培管理や病害虫対策を指導している。</p> <p>○今年度は6月から9月末まで約2週間ごとに、各ほ場を巡回し農家自身にトマトの生育や病害虫発生状況を把握してもらい、適切な肥培管理や病害虫防除の技術力向上を図っている。</p>			
結果と今後	<p>○農家は、トマト栽培に関する知識や情報を適切な時期に学ぶことができ、確実に技術力が向上している。</p> <p>○今後も、若手農家のほ場を定期的に巡回し、久万高原トマトの高品質・安定生産に取り組む。</p>			
				<p>若手生産者へ生育調査に基づく栽培指導を実施</p>

標 題	需要期出荷を目的とした「さくらひめ」夏季自家育苗の取組み		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年8月14日、23日、30日	場所	松山市、伊予市、東温市、松前町の生産ほ場	
指導対象	さくらひめ生産者（5人）	連携機関	県農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○地方局予算「さくらひめ産地強化事業」において、卒業式等の需要期出荷を目的に夏季自家育苗技術の実証に取り組んでいる。</p> <p>○当室では生産者を対象に、セルトレイへの播種とスポットクーラーや冷蔵庫等を活用した育苗管理について指導した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、冷蔵処理のタイミングやかん水管理について質問があるなど、生産意欲の向上にもつながっている。</p> <p>○今年度は、播種～発芽まで（1週間程度）冷蔵処理を行った後、気温の下がる9月中旬ごろまで夜冷処理を行う実証にも新たに取り組む。</p> <p>○引き続き、生産者や関係機関と連携して実証に取り組み、夏季自家育苗技術の確立による収益性の向上を目指す。</p>			
				
さくらひめ播種		スポットクーラーの設置		育苗中のさくらひめ

標 題	パクチー夏播き栽培の出荷最盛期		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和6年8月1日	場所	砥部町満穂	
指導対象	パクチー生産者（2人）	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○中予地域では、標高差を利用してパクチーの周年出荷に取り組んでおり、標高の高い砥部町満穂地区では、夏播きパクチーが8月中旬に収穫最盛期を迎えている。</p> <p>○当地区のパクチーは、2人の生産者が13aのほ場で6/15～8/15に段階的に播種しているもの。</p> <p>○当室ではこれまでの実証試験により明らかになった管理のポイント（播種後のかん水、定期防除、芯腐れ症対策のカルシウム剤散布）を重点的に指導した。</p>			
結果と今後	<p>○生育状況は欠株や病株が少なく、芯腐れ症の発症もなく良好で、7月26日より草丈が30cmを超えたものから順次収穫している。</p> <p>○収穫跡には、すぐに2回目の播種を行い、11月まで継続して収穫を行う。</p>			
				<p>左：段階的に播種したほ場 右：収穫期を迎えたパクチー</p>

標 題	ドローンを活用した機動的な水稻防除の実証		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年8月2日	場所	宇和島市津島町	
指導対象	農事組合法人増穂生産組合	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○同法人の水稻出穂期防除は、JA委託の無人ヘリにより実施しているが、今回、地元業者のドローンを活用した防除の実証を行った。</p> <p>○ドローンはヘリに比べ散布時期や回数、薬剤の選択に融通がききやすいことから、生育ステージに応じた機動的な防除が期待できる。</p>			
結果と今後	<p>○ドローンの防除は、出穂期前（7/19）に殺虫殺菌剤、乳熟期（8/2）に殺虫剤の散布を、JAのヘリ防除は、7/24に殺虫剤の散布を行った。</p> <p>○病害虫調査をしたところ、ドローン防除区はヘリ防除区と比べて葉いもちの発病株数が減少し、斑点米カメムシは、ヘリ防除区では散布後でも増加がみられたが、ドローン防除区では抑えられていた。</p> <p>○収穫後は、収量及び品質、斑点米粒率等を調査し、ドローン防除の有効性を検証し、法人等での導入促進を図る。</p>			
				<p>左：散布準備を見守る関係者 右：ドローンによる水稻防除 （品種：にじのきらめき）</p>

標 題	儲かる農業宇和島地区交流セミナー（新規就農者講座）を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和6年8月8日	場所	喜佐方公民館	
指導対象	新規就農者（17人）	連携機関	宇和島市役所	
普及指導内容	<p>○新規就農者の定着と早期の経営発展を目的に、地方局予算「南予儲かる農業人材育成事業」を活用して宇和島地区交流セミナーを開催した。</p> <p>○セミナーでは、かんきつ生産者による、ドローン防除の事例報告や操作実演のほか、当室からは、売り上げ1千万円を超える経営モデルについて紹介するとともに、水田におけるスマート農業について、先進事例や実証結果等を報告した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「ドローンを使った年間作業について想像ができた」「自分が栽培していない品目の作業時間や収益性がわかり興味がわいた」など、自身の農業経営に活かそうとする声が聞かれた。</p> <p>○引き続き、新規就農者の技術習得と経営安定を目的とした当講座を開催し、新規就農者の定着を支援していく。</p>			
				<p>左：講義の様子</p> <p>右：ドローン実演の様子</p>

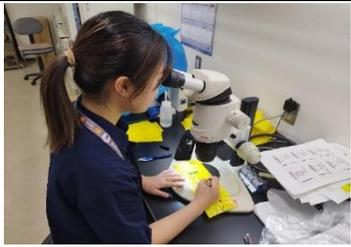
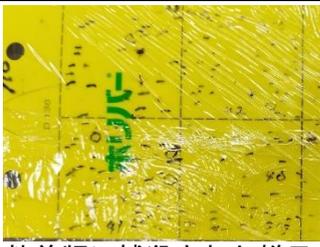
標 題	種用さといも生育順調		機関名	南予地方局地域農業育成室																						
年月日	令和6年8月26日	場所	宇和島市（三間町、津島町）、鬼北町内各地																							
指導対象	種用さといも生産者(10人)	連携機関	JA えひめ南																							
普及指導内容	<p>○当室では、講習会等で土寄せやかん水などの主要管理作業を重点的に指導してきたが、梅雨明け後、降水量が少ない状況が続いたことから、個別巡回によりかん水の徹底を指導している。</p> <p>○令和6年産種用さといもの生育状況を確認するため、管内3地区(三間、津島、鬼北)で、生産者ほ場の一斉調査を行った。</p>																									
結果と今後	<p>○令和6年産種用さといもの生育状況は、昨年同時期と比較して、「やや良～並」との結果となった。</p> <p>○害虫被害や葉焼け等も少ない上、台風10号被害もほぼなく、順調に生育している。</p> <p>○今後も関係機関と連携し現地巡回指導で安定生産に努めるとともに、11月には試し掘り調査により生産量を予測する。</p>																									
<p>【種用さといも】 管内は、さといも重要病害「疫病」が未発生であることから、県内で生産するさといも「商品名：伊予美人」の種芋生産を一手に引き受けている。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>草丈 (cm)</th> <th>葉柄長 (cm)</th> <th>葉長 (cm)</th> <th>葉幅 (cm)</th> <th>子茎数 (本)</th> <th>調査 ほ場数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和6年</td> <td>137</td> <td>114</td> <td>46</td> <td>35</td> <td>2.2</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>昨年</td> <td>133</td> <td>109</td> <td>47</td> <td>35</td> <td>2.0</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> <p>生育調査結果</p>			草丈 (cm)	葉柄長 (cm)	葉長 (cm)	葉幅 (cm)	子茎数 (本)	調査 ほ場数	令和6年	137	114	46	35	2.2	10	昨年	133	109	47	35	2.0	7	 <p>生育良好な種用さといも</p>	
	草丈 (cm)	葉柄長 (cm)	葉長 (cm)	葉幅 (cm)	子茎数 (本)	調査 ほ場数																				
令和6年	137	114	46	35	2.2	10																				
昨年	133	109	47	35	2.0	7																				

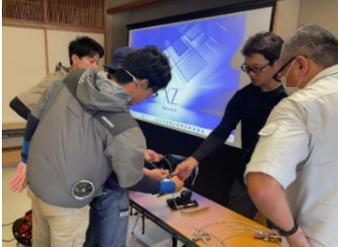
標 題	早場米地帯のイネカメムシ被害の軽減		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和6年8月8日～27日	場所	管内の水田	
指導対象	水稻生産者	連携機関	JA えひめ南鬼北支所、鬼北町農業公社、松野町農林公社	
普及指導内容	<p>○管内で早期米の収穫が最盛期を迎えている。</p> <p>○今年度は、特に、斑点米カメムシに加えて白穂の原因となり減収につながるイネカメムシの発生が多く、出穂期前と出穂後10日～2週間の計2回の防除を講習会や町内放送などで呼びかけた。</p>			
結果と今後	<p>○地域の防除実態に詳しいJAの集荷担当者によると、呼びかけの効果が2回防除を実施した生産者が増え、カメムシ類被害の軽減につながっているとのことであった。</p> <p>○今後も、病害虫の発生等に注意を払い、地域の高品質生産体制の強化に努める。</p>			
 <p>早期米の収穫の様子</p>		 <p>カメムシによる被害粒 (左：2回防除、右：無防除)</p>		

標 題	「紅まどんな」の肥大良好！		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和6年8月20日	場所	鬼北町成藤	
指導対象	紅まどんな生産者（2人）	連携機関	—	
普及指導内容	<p>○南予地方局予算で取り組む「温暖化を逆手に取った鬼北地域での紅まどんな栽培実証」の一環で、班内と管内現地ほ場で果実品質向上に向けた調査を実施している。</p> <p>○鬼北地域では8月中の降水量が非常に少なく、畝間通水等かん水指導を行った。</p> <p>○併せて、ミカンハダニやチョウ目害虫が発生していた園地は防除を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○班内では徹底したかん水・摘果管理により、果実肥大は前年比約110%と良好な結果となっており、この結果をもとに、管内生産者に管理指導を展開する。</p> <p>○生産者からは、「かんきつの栽培経験がない中、かん水方法の指導は助かった」「ミカンハダニの被害は気づいておらず、ありがたかった」「定期的な病害虫被害の観察が重要なことが分かった」等の声が聞かれた。</p> <p>○引き続き、定期的な調査や栽培管理指導により、高品質安定生産につなげていく。</p>			
		 <p>【チョウ目害虫】：ハマキムシ類、アゲハチョウ、ミカンハモグリガ等</p> <p>左：肥大測定 右：ミカンハダニによる被害葉 (葉が白く見える)</p>		

標 題	松山在住の児童に「愛南ゴールド」を利用したジュース作り体験教室を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和6年8月5日	場所	愛南町旧赤水小学校	
指導対象	愛南生活研究協議会員	連携機関	愛南生活研究協議会、中浦公民館	
普及指導内容	<p>○当班が食農教育活動を支援する愛南生活研究協議会は、愛南町を訪問した松山将棋クラブの児童に対し、特産品の魅力をPRするため「愛南ゴールド」を使用した生絞りジュース作り体験教室を開催した。</p> <p>○当班が「愛南ゴールド」の品質特性について説明をした後、「愛南ゴールド」をふんだんに利用したジュースの作り方について調理実習を行った。</p>			
結果と今後	<p>○ジュースを試飲した児童には、生絞り特有の甘味や酸味が好評で、「愛南ゴールド」に対する関心の高まりがみられた。</p> <p>○今後も、ブロッコリーなど地域の食材を活用した同協議会による消費者交流や食農教育活動を支援する。</p>			
		<p style="text-align: center;">協議会員による調理の説明</p>		

標 題	若手農業者に対し儲かる農業愛南地区交流セミナーを開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和6年8月5日	場所	青年農業者ほ場 JA えひめ南南宇和営農センター	
指導対象	新規就農者、青年農業者（13人）	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○地域に応じた栽培技術の導入及び栽培管理の課題共有を図るため、儲かる農業に向けたセミナーを開催した。</p> <p>○当日は、当班作成の営農類型を説明後、高い樹高や密植が課題となっている河内晩柑の縮間伐やカットバックによる高品質省力栽培技術の実証結果を報告した。</p> <p>○その後、実証園地を含め、青年農業者が実践する計6ほ場を巡回する園地互評会を行った。</p>			
結果と今後	<p>○セミナー及び互評会において参加者間で活発に意見交換がなされ、各生産者の課題が明確になるとともに、「今後の経営方針を改善していきたい」との意見が聞かれた。</p> <p>○当班は引き続き、若手農業者の儲かる農業実現に向け、新規就農者等の栽培技術及び経営指導に取り組んでいく。</p>			
				
		<p>左：室内研修 右：園地互評会</p>		

標 題	アザミウマ類の発生調査による効果的な防除を指導		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和6年5月～10月	場所	管内かんきつ園地	
指導対象	管内かんきつ農家	連携機関	JAにしうわ	
普及指導内容	<p>○アザミウマ類は、かんきつの果実を加害し、果実の外観を大きく損ねることから、重要害虫として防除の必要があるが、アザミウマの種類や発消長に合わせた防除を行わないと効果が低い上に、農薬に対する抵抗性が発生する場合がある。</p> <p>○当室では JA にしうわと連携して、管内のかんきつ園地に黄色平板粘着トラップを設置し、アザミウマ種類別の発消長に基づく効果的な防除対策を指導している。</p>			
結果と今後	<p>○本年のアザミウマ類は、平年並みの発生であるが、園地毎のバラツキがあるため、園地に応じた防除を指導した。</p> <p>○引き続き、効果的な防除指導を継続し、被害軽減を図る。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>顕微鏡で確認</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>粘着版に捕殺された様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>チャノキイロアザミウマに加害された果実</p> </div> </div>				

標 題	ジビエを見据えた地域ぐるみのイノシシ対策を関係機関で協議		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和6年7月30日	場所	八幡浜市喜須来公民館 他	
指導対象		連携機関	八幡浜市、伊方町、JAにしうわ	
普及指導内容	<p>○管内市町から「住宅密集地や小中学校近辺に頻繁に出没するイノシシの対応を一緒に考えてほしい」との依頼があったため、(株)野生鳥獣対策連携センターの講師を招いて、関係機関職員による学習会を企画・開催した。</p> <p>○あわせて、市町が連携する広域での獣害対策や、今年1月から運営を始めた伊方町獣肉処理加工施設の効率的利用について協議した。</p> <p>○また、八幡浜市の農家から「捕獲個体を伊方町獣肉処理加工施設で受入れてほしい」という要請もあるため、事業上の円滑な事務処理についても協議した。</p>			
結果と今後	<p>○市街地へのイノシシの出没や農作物被害の軽減には、共助による地域住民の意識づくりが最も重要であるため、啓発活動を継続するとともに、加害個体等については箱檻での捕獲の他、くくり罠で捕獲した場合の保定作業について、猟友会と連携した活動を実施することとした。</p> <p>○処理加工事業者には来年4月からの搬入に向けて受入れや販促活動等を支援する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>左：保定作業について学習</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>右：保定具の使い方を学習</p> </div> </div>				

標 題	黒系ぶどうにおける着色促進剤の効果を検証		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和6年8月	場所	ぶどう園地（内子町大瀬）	
指導対象	JA 愛媛たいきブドウ部会 「ピオーネ」生産農家	連携 機関	JA 愛媛たいき	
普及指導 内容	<p>○温暖化により黒系ぶどうの着色不良が問題となっていることから、当班では着色促進に効果のあるアブシジン酸（アブサップ液剤）の処理を普及している。</p> <p>○部会員の園地において黒系品種「ピオーネ」に試験散布し（処理日：7月3日、4日）、着色促進効果を検証した。</p>			
結果と今後	<p>○JA 職員と果実品質を調査したところ、アブシジン酸の散布により着色が向上し、無処理区に比べ出荷等級が向上した。</p> <p>○実証農家からも「無散布に比べ着色向上効果が実感できた」との声が聞かれた。</p> <p>○今後はアブシジン酸の散布マニュアルを作成し、講習会等を通じて管内農家への普及を図る。</p>			
		<p>【アブシジン酸】 植物ホルモンの一種。色素成分「アントシアニン」の生成を促し、ぶどう果皮の着色を促進する。アブサップ液剤はアブシジン酸 10%の植物成長調整剤。</p>		
無処理の果房（左端）と処理した果房（右3列）				

標 題	ラディッキオの産地化に向けた検討会を実施		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和6年8月6日（火）	場所	JA 愛媛たいき営農センター	
指導対象	ラディッキオ生産者（5人）	連携 機関	大洲市、JA 愛媛たいき	
普及指導 内容	<p>○管内の若手生産者を中心とした任意組織「西洋野菜研究会」を設立し、国産需要が高まっている西洋野菜ラディッキオの産地化に取り組んでいる。</p> <p>○同会は、JA、大洲市等の協力を得て、今後、解決すべき技術課題や販売促進対策等について協議した。当班からは、これまでの実証結果で課題が明らかとなった。</p> <p>○定植後の土壌水分確保とかん水作業の省力化を解決する対策として、「保水資材」を用いた実証試験を提案した。</p>			
結果と今後	<p>○9月定植の秋作で実証試験の実施を決定し、生育調査及び栽培指導を実施する。</p> <p>○実証結果は検討会で共有し、安定生産技術の確立に向けた協議を行う予定。</p>			
				
産地化に取り組んでいるラディッキオ		導入予定の保水資材 (オーガニック素材：土壌の約50倍の吸水)		

標 題	マイネットと若手女性農業者が交流会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和6年8月27日	場所	西予市教育保健センター	
指導対象	マイネット会員及び管内若手女性農業者（18人）	連携機関	西予市	
普及指導内容	<p>○西予市内で、農業経営のパートナーとして資質向上に努める女性組織「マイネット」が、若手女性農業者との交流会を開催した。</p> <p>○当班は世代を超えた女性農業者による料理づくり交流や、農業経営の夢実現に向けた話し合い活動を支援するとともに、女性の経営参画に関する意識調査を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○話し合いでは、今後の夢について語る若手女性農業者に対し、先輩が体験に基づきアドバイスするなど、今後の経営を考える貴重な機会となった。</p> <p>○また、交流活動により、若手女性農業者組織「フレッシュあぐり媛」に新たな仲間が1名加わるなど組織の活性化にもつながっている。</p> <p>○今後は、地域リーダーとなり得る女性農業者の育成に向け、交流活動を継続支援していく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: right;">左：料理づくりで交流 右：班に分かれて話し合い</p>				

標 題	さといもの省力的な防除技術を実演！		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和6年8月7日	場所	西予市宇和町	
指導対象	さといも生産者（10人）	連携機関	農林水産研究所、JA ひがしうわ	
普及指導内容	<p>○西予市管内へのさといも省力防除技術の普及を図るため、ドローンおよび乗用管理機によるデモ散布を実演した。</p> <p>○両技術とも防除時間を大幅に短縮できること、測量や機械に合わせた植栽が必要であることなど、導入する上での利点と留意点を説明した。</p> <p>○また、梅雨明け前後からの高温乾燥による生育不良に対応するため、水管理の徹底を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「ドローンが想像以上に風圧があり農薬がよく付着しそう」「大豆用の乗用管理機があるので、すぐにさといもに利用できそう」といった声が聞かれた。</p> <p>○今後は、面積拡大を視野に入れている生産者に対して個別に省力防除技術を推進し、さといも栽培面積の拡大を目指す。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: right;">左：ドローンの説明を聞く生産者 右：ノズルを伸ばした乗用管理機</p>				

標 題	低コスト環境計測機器の製作講習会を開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和6年8月2日	場所	農林水産研究所	
指導対象	モデル農家、JA 営農指導員、普及職員等 (63 人)	連携機関	モデル農家、JA、普及拠点等	
普及指導内容	○モデル農家 (いちご・きゅうり・トマト) を対象に低コストのデータ駆動型栽培を実証するため、低コスト環境計測機器の製作講習会を開催した。 ○環境モニタリングによるデータ観測に基づいた農業への取り組みや低コスト環境計測機器の製作について指導を行った。			
結果と今後	○今回の講習会では、各班に分かれ温度・湿度 (通風式)、CO ₂ が計測できる低コスト環境計測機器を製作することができた。 ○今後は、計測機器の設置及びデータ活用の手法確立による生産性の向上を目指し、外部講師による栽培管理講習を開催して儲かる農業の実現を目指す。			
				<p>左 環境計測機器の仕組みを説明 右 自ら環境計測機器を製作</p>

標 題	水稻の採種ほ審査等の実施		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和6年8月1日、9、16、23、27、28日	場所	中予管内採種ほ場 (220 ほ場)	
指導対象	伊予地区種子生産協議会	連携機関	JA (全農、松山市、えひめ中央) 中予局産業振興課、農林水産研究所	
普及指導内容	○水稻の優良種子生産のため、伊予市と松前町に水稻奨励品種 (6 品種) の採種ほ場を設置している。 ○今月は、「あきたこまち」の I 期審査 (出穂期)、「ヒノヒカリ」、「ひめの凜」、「媛育 71 号」、「松山三井」、「しずく媛」の I 期事前審査 (出穂期前) を行った。 ○上記審査や事前のほ場巡回調査を通じ、関係者が一丸となり、変種、異品種、病害虫被害株、雑草等の除去を行った。(のべ 552 ほ場、34 人参加)			
結果と今後	○審査結果と指摘事項について JA を通じて同会員に周知し、今後の管理指導を行った。			

【県主要農産物採種事業】

主要農産物の優良種子を安定供給するための措置。うちほ場審査は、種子検査員 (農産園芸課、中予局産業振興課、農林水産研究所職員) が、種子生産者、県米麦振興協会、JA 立ち合いの上、実施している。



変種、異品種、病害虫被害株、雑草等を徹底的に除去

標 題	優良事例から6次産業化について学ぶ		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和6年8月23日	場所	内子町石畳自治会館	
指導対象	県普及指導員（5人）	連携機関	(株)石畳つなぐプロジェクト	
普及指導内容	<p>○地域の特性や資源を最大限に活かした持続可能な地域振興に関する取組みとして、内子町石畳で行われている優良事例から、6次産業化の概念を理解するとともに、普及指導員の普及指導活動の充実・強化を図るため、調査研究会を開催した。</p> <p>○当日は、(株)石畳つなぐプロジェクトの寶泉武徳氏と山田哲也氏を講師に招き、同社が行っている石畳地区での取組内容について講習を受けた後、石畳地区の特産品であるくりの園地視察を行った。</p>			
結果と今後	<p>○研修に参加した普及指導員からは「本地区での取組みは他地区でも活かせることが多々あり、非常に勉強になった」「今後の現場指導に役立てたい」との声が聞かれた。</p> <p>○今後も定期的に研究会を開催し、普及指導員の知識と技術力の向上を図っていく。</p>			



左：石畳地区での取組みを学ぶ
右：石畳完熟くり園地を視察

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々 1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543